

令和7年度「つどい、つながる文化の会議」の事業評価について

1. 本市がめざす文化的コモンズについて

(カッコ内の記載は関連する文化振興ビジョン(第2期)における理念及び取組の方向性)

「文化的コモンズの形成」が導き出された6つの論点	関連する文化振興ビジョン(第2期)における理念及び取組の方向性
①地域を支える人材を育む文化は、持続可能な地域社会に不可欠な存在である	・地域に根付いた文化芸術の担い手の育成(理念3 取組の方向性②)
②文化施設の根本的な存在意義は「文化的な繋がりを求めて人々が集まれる場所」である	・地域から文化的な繋がりを求めて集まれる場づくり(理念2 取組の方向性④)
③文化拠点には「記憶」を保存、共有し、「共感」を創造、発信する装置であることが求められている	・地域外で活躍する芸術家の招聘による鑑賞機会の充実(理念2 取組の方向性③) ・地域の文化資源の保存・継承、地域外への発信(理念3 取組の方向性③)
④地域の文化資源の保存や開拓、住民相互の交流を仲介するコーディネーターが必要である	・文化芸術と多様な主体や活動をつなぐコーディネーターの育成、実践できる場の創出 ・地域における文化芸術を通じた交流の機会の創出(理念1 取組の方向性②)
⑤地域の文化拠点には地域内外の文化的営みを繋ぐプラットフォーム機能が求められている	・地域における文化芸術活動への支援(理念1 取組の方向性①) ・地域における文化芸術を通じた交流の機会の創出(理念1 取組の方向性②)
⑥地域の文化施設は、文化拠点としてのビジョンを構築・更新しながら、社会の変化に適応していかなければならない	・だれもが文化芸術につながる機会の創出(理念2 取組の方向性①、理念3 取組の方向性①) ・文化芸術と他分野との連携を通じた地域課題へのアプローチ(理念1 取組の方向性③) ・文化拠点としての地域における社会包摂につながる取組の促進(理念2 取組の方向性②)

社会状況が絶えず変化する中でも、
市民が心豊かな暮らしを実現できている

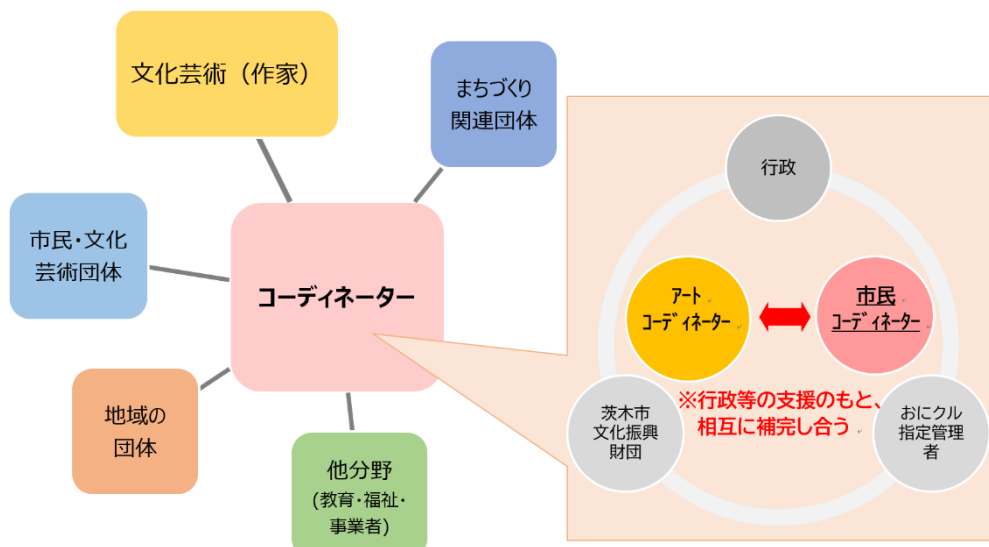
= 茨木版文化的コモンズが形成されている

2. 茨木版文化的コモンズを形成するために必要なコーディネーター

(1) コーディネーターについて

・アートコーディネーター(ディレクション、キュレーション、制作)

・市民コーディネーター(市民や活動等をつなぐ) ⇒参加者(ごちやの間ファミリー)



(2) 市民コーディネーターが担う役割

主要な役割

- つどう……文化芸術の現場に集まり、事業や活動の力添えをする。
- つながる……文化芸術に興味を持つ市民や実際に活動する市民・団体と交流する。
- つたわる……活動の価値を言語化され、市内外に広まる。 ※活動：市や財団等の主催事業含む
- つなげる……市内の活動(イベント等)や団体等との仲介をする。
- つくりだす……実際にイベント等を企画・運営する。

(3) 「つどい、つながる文化の会議」の位置づけ

文化的commonsの形成に向けては、住民相互の交流を仲介するコーディネーターの存在が必要されており(財団法人地域創造 H26.3月報告書)、本市においては、アートコーディネーターと相互に補完し合いながら地域や活動をつなぐ「市民コーディネーター」の育成を目的とした活動。

【目的】茨木版文化的commonsの形成

【目標】①市民コーディネーターの育成、②他分野や団体との交流、③市内外への活動の波及

3. 令和7年度「つどい、つながる文化の会議」実施内容

(1) プログラム(全6回)

	日程	目的	内容	講師
①	7月13日(日)	市民コーディネーター、文化的commonsの理解	・本市ビジョン・前年度活動内容の報告 ・講義1「文化的commonsの定義、事例の紹介」	藤野 一夫教授 (神戸大学名誉教授)
②	8月2日(土)	仲を深めヒアリング手法を体得、視察先選定	・講義2「アートコーディネーターの活動について」 ・視察先候補の選定	One Art Project
③	8月～9月某日	視察先の活動理解	グループごとに市内視察	—
④	9月13日(土)	各グループ発表、他分野とどう関わるか	・視察内容の共有 ・講義3「他分野×アートの事例共有」	室野 愛子氏 (社会医療法人同仁会耳原総合病院チーフ・アートディレクター)
⑤	10月12日(日)	次年度できることをディカッション	・他分野で活躍されている方との交流 ・次年度に向けた具体案の検討	—
⑥	11月15日(土)	次年度できることをディカッション	・他分野で活躍されている方との交流 ・次年度に向けた具体案の検討	—

(2) 申込状況

19名(うち前年度からの継続参加:8名)

4. 事業評価について

(1) 評価の仕方

昨年度に引き続き、現場に赴いていただき、参加者の活動の様子や事務局の運営を踏まえて、専門部会委員のお二人に評価いただく。

(2) 事業評価の目的

事業の改善・発展や、事業のアウトカム(参加者の変化等)の共有を含め、来年度の事業実施に向けたフィードバックを想定。

(3) 評価指標

- ①参加継続率(リピーター率及びアンケート回答、申込に対する最終参加者の割合) …<つどう>
- ②交流した団体等の数 …<つながる>
- ③本取組の内容や本取組で紹介した事業等の周知(参加者に周知してもらえたか) …<つたわる>
- ④参加者の変化(本事業の中で参加者がどのように変化したか)
- ⑤事務局の運営(目標の達成度合や設定内容は適切か、参加者が活動しやすい環境づくりができているか)

など

(4) 収集データ等

- ・参加申込時の聞き取り内容(リピーター率、参加者属性)
- ・申込に対する最終参加者の割合
- ・各回現場での様子(専門部会員のお二人が視察)
- ・各回終了後のアンケート ※下記①参照
- ・第6回終了後のふりかえり内容(初回に参加者それぞれの「めざす姿」を記入してもらう ※下記②参照)
- ・一部参加者との座談会での聞き取り内容(各グループ1名ずつ対面での実施を想定)
- ・事務局(受託者・市)への聞き取り

アンケート項目について	①
1.文化芸術活動に対して、以前より「関わりたい」と思うが高まりましたか？	
2.今回の活動を通して、新しい出会いやつながりを感じましたか？	
3.地域社会に貢献したいという気持ちは高まりましたか？	
4.新しいことへの好奇心や、アイデアを得ることができましたか？	
5.この活動について、家族や友人など周りの人に紹介したいと思いますか？	
6.今回の活動全体について、印象に残ったキーワード、感じたこと・運営に関するご要望などがあれば自由にご記入ください。	
7.今回何をみて応募しましたか？(1回目のみ)	
	4(非常に思う) 3(まあまあ思う) 2(少し思う) 1(特に変わらない)

SPS ©Suntory Publicity Service LIMITED. All Rights Reserved.

令和7年度茨木市主催 つどい、つながる 文化の会議	②
私の目指す市民コーディネーターは…	
NAME _____	

あひるのまち
あひるのまち
あひるのまち